つなごう未来へ。長崎から平和のバトンを！

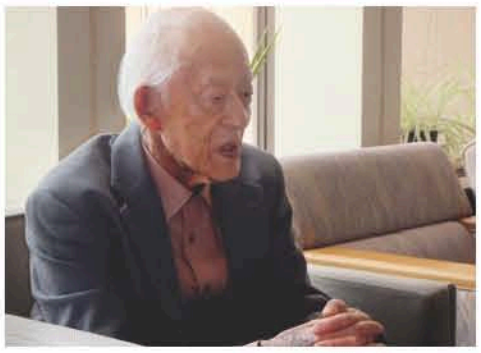
今年も全国から集まった9組のおやこ記者

ナガサキ・ピース・タイムズ
非核協 おやこ記者新聞
第5号
創刊5周年
発行者
日本非核宣言自治体協議会
（にほんひかくせんげんじちたいきょうぎかい）
〒852-8117
長崎県長崎市平野町7番8号
長崎市平和推進課内
電話 095-844-9923
FAX095-846-5170
E-mail info@nucfreejapan.com
ホームページ
http://www.nucfreejapan.com
2012年
8月9日(木)
NAGASAKI PEACE TIMES

親子記者事業5周年を記念し、渡部陽一さんを長崎にお招きして関連した行事を行いました。【記事は4－5面】

平和宣言文に込められた思い

―私達にもできる平和活動―



23年間平和宣言文起草委員を務めている土山さん

平和祈念式典で市長が読み上げる平和宣言文の起草委員・土山秀夫（つちやまひでお）さんを取材しました。平和宣言文起草委員会は被爆者や学識者などで構成され、土山さんも23年間参加しています。平和宣言は被爆地から世界へ年に一度だけアピールする大切な場です。

遠く離れた私達に出来る事はないかたずねると、「身近な事から始める事が平和へとつながっていき、そのためには根気と勇気がいる」と教えていただきました。戦争がなくなる事だけが平和ではなく、食物や豊かな環境に恵まれ、人権無視のなくなる事が本当の平和だと感じました。

［中島さくの・あつみ記者］

森田孝子（もりたたかこ）さんが強く思う願い

人間が人間らしく生きてほしい

9日に森田さんを取材しました。森田さんは原爆死没者名簿を毛筆で書いている人です。まず、名前を1人ずつ書いている時どんな気持ちか聞きました。そしたら天国に行って幸せになれるようにいのりながら書いているとおっしゃっていました。次に名簿を書きはじめて10年という節目で、どういう気持かと聞いてみると、原爆の恐ろしさを私達がちゃんと伝えないといけないとあらためて感じたとおっしゃいました。最後に、森田さんにとって未来につなげたい思いはどのようなものか聞くと、「平和」とおっしゃいました。生きていく未来が平和だったらいいな、とおっしゃいました。

［堀　萌花・雅貴記者］

原爆死没者名簿への記帳を続ける森田さん

トルーマン氏の孫にお会いして

―被爆地への想い―

8日、平和会館で、クリフトン・トルーマン・ダニエルさんに、取材しました。アメリカでは、日本や原爆のことはほとんど教えてくれないそうです。被爆者と話して、みんなと分かち合おうとしていると話されました。被害をうけた子供達に関して質問したところ、何も知らない子供達がとても気の毒、そういう子供達のためにも、もう原爆のような悲劇を繰り返してはならないと話されました。また書くことが仕事なので、書くことで原爆のことを未来に伝えていきたいそうです。ダニエルさんと私達で、原爆の事実や平和を、伝えていきたいと思います。

［梅次　真由・靖弘記者］

原爆投下時の米大統領、トルーマン氏の孫にあたるダニエルさん

平和はいつでも注目される

―法律が出来て16年、時間をムダにしたくない―

原爆死没者名奉安

CTBTO準備委員会事務局長ティボル・トートさんを取材しました。

CTBTOとは、核実験を禁止するという法律を守らない国がいるため、その法律を守っているか監視する所です。

しかし、世界では一部の国がこの法律を守っていない。そのような国は、核実験が悪い事、183ものの国が守っている事を理解し、この法律を守るとサインをし、自国での承認を得ることが大切です。

核保有国の米国や中国はサインはしていますが、それぞれの国内での手続きが終わっていません。法律を守っていない国への影響力が大きいため、いち早くこの法律への協力が必要です。

［堀　萌花・雅貴記者］

核実験禁止へ協力を求め続けるトート事務局長

世界初のセンターからの発信

―核兵器がなくなるその日まで―

長崎大学核兵器廃絶研究センターでセンター長の梅林宏道先生にお話を聞きました。

センターは、今年4月に開設された、核兵器廃絶を目的とする世界初の研究機関です。

梅林先生は、「世界の国々が核兵器は自分の国を守ってくれるという考えをなくし、核兵器なしでも国が平和になるという考えに変えていってほしい。そのために、非核兵器地帯が世界にもっと広がるように働きかけていきたい」と力強く話されていました。

先生の「市民の声が一番力を持っている。まずは、一人一人が核兵器廃絶に関心を持つことが大切だ」という言葉が印象に残りました。

［泉　千花穂・純子記者］

核兵器廃絶の思いを語る梅林先生

サプライズ！

トートさんにお誕生日ケーキをプレゼント

この瞬間が幸せな瞬間。最高！

親子記者の堀萌花・雅貴親子が、CTBTO準備委員会事務局長のトートさんへの取材の中で、「幸せだなと思う瞬間はどんな時ですか？」と質問しました。その質問のすぐ後に、親子記者8組が加わり、サプライズで、この日誕生日を迎えたトートさんをお祝いして、全員でケーキをプレゼントしました。

トートさんは「さっきの質問の答えだけど、今私はこの瞬間が幸せな瞬間。最高！」と笑顔で答えてくれました。ケーキはトートさんが切り分けてみんなで一緒にいただきました。

世界の人と分かち合う、それがすでに平和

―医師として核は絶対に反対―

長崎―広島を自転車で移動し、核問題を考えてもらうイベント、ピースバイク。このイベントを茅野さんは行った。

核戦争防止国際医師会議（IPPNW）で活躍されている長崎大学病院精神科医師・茅野龍馬さんにお話を聞きました。茅野さんは、長崎出身で小さいころから平和学習をしてきました。「核兵器はNO、という答えが始めからある話し合いはきらいだった。でも、IPPNWでは日本人が少なく、各国の違った意見で筋道の通った話し合いができる」と話されました。さらに茅野さんは、「世界の人が集まり、1つのことを決めようとすることがすでに平和だと思う」とも話されました。お話をきいて、ぼくはいろんな人とコミュニケーションをとって友達になれたらいいなと思いました。

［祖納　大樹・順一記者］

長崎の平和学習に学ぶ

子ども達にできること
―上長崎小学校を訪ねて―

平和学習の成果を発表する5年生

9日、上長崎小学校で5年生に取材しました。学校では、キッズゲルニカや原爆資料館見学、紙しばい作りなどを、毎年5年生がしているそうです。キッズゲルニカは、5年生全員の80人で、たくさん話し合いをして作ったそうです。この絵はアメリカやロシアなど、世界中に行くと話していました。「この絵を見て核兵器がなくなって、みんなが仲良しの世界になればいい」と話していました。取材をして、原爆や戦争がなくて、世界中の子ども達が安心してくらせるようになればいいと思いました。

私達が、「平和」のことを深く考え、未来に平和を伝えていきたいです。

［梅次　真由・靖弘 記者］

私たちが語りついでいきます
―梅香崎中学校の平和学習―

平和人権委員による平和宣言

オランダ坂に近い長崎市立梅香崎中学校の平和祈念集会を訪問しました。

授業やフィールドワークの学習の成果を、1年生は原爆被害、3年生は国際理解と平和について発表していました。

それぞれ「戦争はあたりまえのことを奪ってしまう」、「多くの人を巻き込んだ戦争が悲しい」、「国際社会の一員として私たちが原爆を語りつぎ発信することが大切」と訴えていました。

生徒代表の松本碧さんと原きく乃さんは、「長崎市の学校では、本だけでなく実際に街に出て戦争遺産の実物を見て回ることができるから良い」と話してくれました。11時2分の原爆投下時刻には、静まり返った体育館で全員の黙祷が捧げられ、僕も「平和を守る力にならなければいけない」という思いがわいてきました。

［星山　統哉・ゆき子 記者］

「あの日」を未来に伝えたい
―長崎県原爆被爆教職員の会―

会の活動の傍ら、現在も高校の非常勤講師をしている山川剛さんにお話をうかがいました。昭和45年に設立された会では、平和学習の大切さを考え、夏休みの登校日をそれまでの8月11日から9日に変える運動や、子供達に「あの日」のことを分かりやすく伝えるための読本の執筆、遺構案内などの活動をしています。自身も被爆者である山川さんは、将来を悲観せず、ひとり一人が希望の証しをもって「人間の未来はまっくらじゃないよ」と思える世界を見つけることで、「二度と被爆者をつくらない＝核兵器0」の世界は実現できると信じています。

［北住　姫菜・ちほ 記者］

平和学習の大切さを訴える山川さん

多くの人に伝えたい
―戦争はいけないと―

被爆体験を語る永野さん

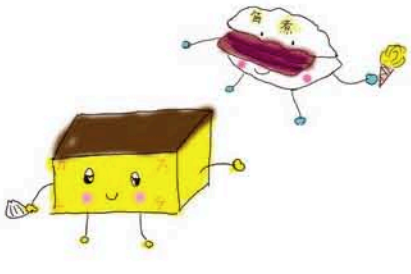
原爆資料館のいこいの広場で、被爆体験講話者（語り部）の永野悦子さんにお話を聞きました。

永野さんは16歳の時に、弟と妹も被爆し、弟は全身やけど、妹は原爆症で亡くなってしまいました。

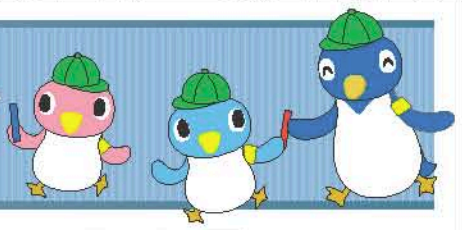
語り部になったのは、弟や妹の50回忌の節目の時で、1人でも多くの人に戦争、原爆、核兵器はいけないということを伝えたかったからだそうです。語り部をやっていくうちに、徐々に使命感がわいてきたと話していました。

未来への思いは、すぐに「平和」と答えてくれました。私も戦争、核兵器のない世界になってほしいと思いました。

［泉　千花穂・純子 記者］



被爆者の思いを受け継ぐ人々



写真で被爆地を記録する
―今の長崎を見ずして―

被爆地長崎への思いを語る松村さん

写真集「ありふれた長崎」では、被爆地長崎の記録として今の長崎を感じ取ってもらえると嬉しいと語る写真家の松村明さん。毎年8月9日に長崎を訪れて写真をとっているのですが、今年は朝の平和公園で献花をされた方が1人だったこと、11時2分に街なかで黙祷する人がいなかった事に、被爆者の高齢化に伴い、風化していく現実

にショックをうけたといいます。松村さんは、原子力を使わない社会を「理想」に思っています。叶わないと思える理想でもそれに向かって物事を考え求める事が大事だとおっしゃっていました。

［北住　姫菜・ちほ記者］

「妻の故郷である長崎は里帰りなどで結び付きを感じました」。ご自身が出版した

未来につたえる
―被爆者の体験をマンガに―

9日、樺島町にあるタイピントギャラリーで、マンガ家のマルモトイヅミさんにお話を伺いました。マルモトさんは、「マンガで読むナガサキ」の制作者で、話だけでは難しい被爆の様子を、マンガにすることでだれにでも分かりやすく伝えることができるように、作品をつくられました。

インタビューを受けるマルモトさん

マルモトさんは、「昔の人の体験を、未来の人につたえて、原爆や戦争のない平和な世界を作ってほしい」と、話してくださいました。

お話を聞いて、原爆や平和についてもっと勉強して、未来につたえていかなければならないと思いました。

［古河　育美・千恵子記者］

ノーモアヒバクを伝えたい
―紙芝居はいつでもどこでも誰でもできる―

紙芝居で被爆体験を伝えている末永浩さんのご自宅で、実際に紙芝居をしていただき、戦争の体験も語っていただきました。

末永さんは、「本や原爆資料館を見れば大体のことは分かるが、体験した人が話せばもっと分かる」とおっしゃっていました。

9日は、小、中、高等学校で紙芝居をしており自分で作った紙芝居の貸出しも行っています。

将来的には、県外にも貸出しをしていきたいと考えているとのことで、全国で末永さんの紙芝居が見れるようになるといいと思いました。

末永さんが伝えていきたいことは、「原子爆弾は使ってはいけない」、「自分たちで被爆者は最後」というメッセージです。

［大畑　翼空・正恵記者］

被爆体験を紙芝居で伝える末永さん

英語で「平和」を学ぶ
―人間はみな同じ―

教科書を手にお話する前川さん

大学の英語講師の前川智子さんにお話を伺いました。

前川さんは、「PEACE TALK」という教科書を作って学生たちに英語を教えていて、これまでに約1000人を超える人がこの本で学んでいるそうです。

前川さんが通訳の仕事が縁で知り合った世界の平和運動家たちの活動の様子がまとめられていて、「人間は国や肌の色が違っていてもみな同じ。争いよりも平和を」や、「戦争や原爆をある一方向の目でとらえるのではなく広い視野をもって見渡すことが大切」などどうやったら世界中が仲良くなるか考えることが必要と話してくださいました。

ぼくたちが、その思いを受け継いで広げていかなければならないと思いました。

［星山　統哉・ゆき子記者］

親子記者事業の5周年を記念して、日本非核宣言自治体協議会が主催した「ピースフォトコンテスト」が行われ、入選作が発表されました。そのコンテストの特別審査員を務めたのが戦場カメラマンの渡部陽一さんです。

10日、「渡部陽一氏フォト・ワークショップ」の会場となった長崎市平和会館で、フォトコンテストの審査結果が発表された後、全国から集まった親子記者が渡部さんに直撃インタビューを行いました。

世界中の戦場で泣いている子ども達の声を届けたいと、戦場カメラマンになった渡部さん。各地区の親子記者の質問に、身ぶり手ぶりを交えて、丁寧に答えてくださいました。渡部さんの優しいまなざしを間近に感じて、全国から集まった親子記者達はワクワクドキドキ、忘れられない一日となったようです。

親子記者事業5周年記念

渡部陽一さん

フォト・ワークショップ

親子記者が直撃インタビュー

それぞれの分野から平和を伝えます！

おと語り「虹」が伝えるもの

―原爆が落とされるのは長崎が最後―

朗読する東島さん

カトリック城山教会で、おと語り「虹」による朗読「瞳のなかの子どもたち」と、スコアによる合唱「小さな手をあわせて」を聞かせていただきました。直前に原爆資料館へ行き、実際の写真や遺品の数々を目にした直後だったこともあり、朗読を聞いているとそのときの様子、情景がありありと浮かびました。強く心を揺さぶられ、写真を撮ることも忘れてしまうほどでした。おと語り「虹」の代表・東島真奈美さんにお話を伺うと、自分に子どもができたことで、子どもたちに戦争のない、平和な未来を届けたいという思いが強くなったそうです。そこで、自分にできることから戦争を伝えていこうと考え、朗読をはじめたと話していました。私も自分たちにできる平和活動をしていこうと思います。

［大畑　翼空・正恵記者］

音楽で若者に平和を伝えたい

―命の尊さメロディーに乗せて―

長崎合唱連盟事務局長の岩永崇史さんに活水中・高校でお話をうかがいました。岩永さんは、長崎の被爆詩人福田須磨子さんが残した「生命を愛しむ」に心を打たれその詩に曲をのせ、音楽での平和活動をなさっています。「自ら被爆をつづったこの詩は、まさに平和へのメッセージであり若い人達に伝えなければいけないと思った時、メロディーが浮かんできた」と話されました。原爆の恐ろしさをいっしょうけんめい語ってくださる岩永さんは「戦争がないから笑顔で歌える、若者が平和を守り希望を持つことが未来につながる」と話し、ぼくの心にしっかりとひびきました。

［祖納　大樹・順一記者］

歌で平和を伝える岩永先生と活水高校の生徒

絵本でつなぐ子ども達へのメッセージ

―最初で最後の原爆絵本―

北部ゆりの会の皆さんに滑石公民館でお話を聞きました。北部ゆりの会は、布でおもちゃや絵本を作って図書館などで貸し出しています。その中で今回は「長崎の原爆」という絵本を取材しました。原爆を題材にした理由は、福島の原発事故にショックを受け、今やらなければと思いたったからです。作業は40代から70代の15人くらいで、日数は3ヶ月だそうです。

作品を作る時には正確な情報を伝えるために、たくさんの資料を読まれたり、専門家に話を聞かれたそうです。

布を使う事で子どもたちの表情が優しくなることをうれしく思い、これからも社会とのつながりのため、作り続けたいとのことでした。

［中島さくの・あつみ記者］

北部ゆりの会が作った原爆の布絵本

未来を担う子どもたちへ

―絵を通して夢と希望を―

「平和の祈りキッズゲルニカinながさき」と題し、世界の子ども達が、平和を願って描いた「キッズゲルニカ」平和壁画12点が原爆落下中心地公園に展示されています。長崎親善人形の会「瓊子の会」の山下昭子さんにお話を聞きました。

4年前に始めた壁画は現在23点になるそうです。

8月9日の長崎原爆の日を中心に8月6日から7日間展示し「子どもたちのメッセージを平和の祈りとしてとどけたい。」「平和の意義と、国際親善を通して子ども達に未来をたくしていきたい。夢と希望を持ってほしい」と話してくれました。お話を聞いて、世界の子ども達が絵をとおして、平和を考えるきっかけになっていると思いました。

［古河　育美・千恵子記者］

キッズゲルニカの前の山下さん

最優秀賞作品

子どもの部

神奈川県藤沢市　鎌田　理子さんの作品

渡部さん講評　赤ちゃんの笑い声が聞こえてきそう。赤ちゃんの目の中に撮っている家族が写り込んでいるのがいい。

一般の部

宮城県仙台市　大森　俊裕さんの作品

渡部さん講評　家族みんな一緒がいい。どんな厳しい環境の中でも家族みんな一緒で生き延びていく大きな力になります。

親子記者の質問に答える渡部陽一さん

日本非核宣言自治体協議会が発行する『ナガサキピースタイムズ　おやこ記者新聞』は、今年で創刊5周年を迎えました。今年は全国から150組の応募があり、地域ブロック別の抽選で選ばれた9組の親子が新聞作りに取り組みました。

今回の『ナガサキピースタイムズ　おやこ記者新聞』のテーマは「つなごう未来へ。長崎から平和のバトンを！」。

全国から集まった親子記者の皆さんには、事前取材として「平和な瞬間はどんな顔？」というテーマで写真撮影をして貰いました。事前取材を始めるにあたり、「平和」について考えたという各親子記者の皆さんが選んだ題材は、笑顔にあふれていました。この笑顔を絶やさず未来につなげていくために何が一番大切なのか、その事を考えるためにも、新聞作りのために過ごした長崎での4日間は非常に有意義なものになりました。

北海道ブロック　おいしい～！は平和の合い言葉

この写真は、父が買ってきたケーキをこれから食べようとしているところです。おいしいものを食べている時が、僕には一番幸せで平和な瞬間です。

学校に行けることや、食べ物があることなど、なにげない日常に平和を感じます。この平和がずっと続いてほしいと思います。

［大畑　翼空 記者］

子供たちにおいしい物を食べさせることができるのは、平和な世の中だからこそです。

おいしいものを食べている時の子供たちの笑顔は、明るい未来への灯だと感じています。そんな子供たちが、これからも平和な日本と世界を築いてくれることを願います。

［大畑　正恵 記者］

中部ブロック　仲間とピース、ペットもピース

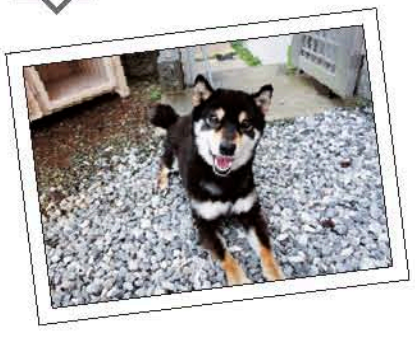
愛犬Peace（2歳♂）、家に来てすぐに病気になり入院・手術。獣医からは大金の見積り。親達は一瞬迷いましたが、子ども達には迷いなし。今は完治して健康そのもの。すっかり家族の一員です。

［梅次　真由 記者］

焼山2，400m。9時間かけて登頂。何度かあきらめかけそうになったけど、ふんばって辿り着いた。ひとりじゃできなかった。仲間がいたから来れた。ありがとう。

［梅次　靖弘 記者］

四国ブロック　二つの友情どっちも私の宝物



ハナが家にきたのは、私が年中の時でした。今は私が学校から帰ってくると、しっぽをふって来てほしそうに見ています。私がよっていくとジャンプをしてきます。お母さんが帰って来るまで、私とハナとで留守番をしているのでこわくありません。私が大人になっても、元気で長生きしてほしいです。［中島さくの 記者］

2人の出会いは10年前の保育園。性格が全く違う2人ですが、かけがえのない友達同士。本音で話しをしている姿を見てうらやましく思うことがあります。これからたくさんの困難にぶつかるでしょうが、お互いに助けあって成人式をむかえることを楽しみにしています。

［中島あつみ 記者］

東北ブロック　秋田県秋田市
泉　千花穂さん（4年生）
純子さん

北海道ブロック　北海道旭川市
大畑　翼空さん（6年生）
正恵さん

中部ブロック　富山県魚津市
梅次　真由さん（5年生）
靖弘さん

関東ブロック　栃木県小山市
古河　育美さん（6年生）
千恵子さん

中国ブロック　鳥取県鳥取市
堀　萌花さん（5年生）
雅貴さん

近畿ブロック　兵庫県伊丹市
星山　統哉さん（6年生）
ゆき子さん

九州ブロック　宮崎県日向市
北住　姫菜さん（5年生）
ちほさん

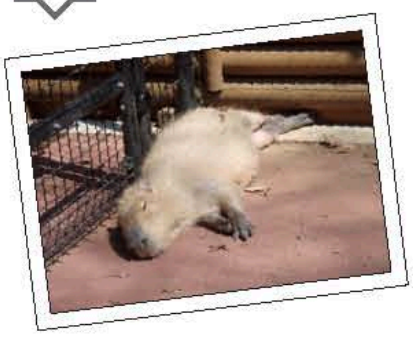
四国ブロック　高知県高知市
中島さくのさん（4年生）
あつみさん

沖縄ブロック　沖縄県石垣市
祖納　大樹さん（5年生）
順一さん

笑顔を未来へ！

それぞれの地元で　平和の写真を撮りました

関東ブロック　のんびり暮せる今の幸福



私はカピバラが大好きで、のんびりしている顔を見ていると心が落ち着きます。みんなが楽しくのんびり暮せるというのが、私の考える平和です。動物園で見たカピバラ達は、とても平和そうでした。人間も争いをしないで、のんびりくらせたらいいと思います。

［古河　育美 記者］

父は足腰が不自由になりましたが「百聞は一見に如かず」と前向き思考で、「一生勉強」が持論です。そんな父も戦争中は士官学校へ行き、母は東京大空襲に遭っています。紆余曲折の末に過ごす穏やかな日々。二人の笑顔が一日も永く続く様、願っています。

［古河千恵子 記者］

東北ブロック　見守る母のまなざし

秋田市の大森山動物園には、今年生まれたたくさんの子ヤギがいました。楽しそうにじゃれあっている子ヤギを見守る母ヤギの目が、とてもやさしく幸せそうに見えました。私も家族といっしょにいると幸せな気持ちになります。きっと、動物たちも同じなんだなと思いました。

［泉　千花穂 記者］

6月15日は千花穂の誕生日。バースデイケーキは手作りで、デコレーションは千花穂がしました。「どうしようかな～」と迷いながらも、自分好みのケーキに仕上げてました。毎年、家族がそろって誕生日のお祝いができるのも、平和な毎日があるからこそだと思います。

［泉　純子 記者］

中国ブロック　畑の幸せ　リビングの幸せ

おばあちゃんは畑で色々な野菜を育てています。おばあちゃんが育てた野菜は、スーパーで売っているものより、ちがう美味しさです。それはおばあちゃんが一生けん命育てているからです。そんな安心な野菜が食べられるって幸せだなと思います。

［堀　萌花 記者］

平日は皆が忙しくしていますが、休日になるとスイッチオフ。ゴロゴロと横になり、おしゃべりをしたり、テレビを見たり、そしてお昼寝を楽しむ。こんなにも無防備な格好のお昼寝をしている姿を見ると、平和で幸せだと感じます。この幸せがいつまでも続くよう願います。

［堀　雅貴 記者］

近畿ブロック　祈る！みんな平和な空の下

生まれたばかりの赤ちゃん（従妹）が、初めて祖父母の家に来た時の写真です。待っていたみんなが、赤ちゃんを囲んでのぞき込みました。

祖母は、赤ちゃんを抱くとなかなか放してくれません。そんなみんなの真ん中で、赤ちゃんは平和そうな顔ですやすや眠っていました。

［星山　統哉 記者］

空は、世界中どこにもずっと繋がっているのに、同じ青空でも、「こんなに心穏やかな気持ちで空を眺められる」人たちや鳥たちばかりではないのだな・・と思うのです。（釜山、龍頭山公園の釜山タワーにて）

［星山　ゆき子 記者］

沖縄ブロック　地上戦があった沖縄の祈り

ぼくが平和だなーと思うのは、三線教室のおじー先生が、楽しそうに三線を弾いている顔です。

昔から沖縄の人々は、武器より文化を大事にしてきました。三線を弾く先生を見ていて、この瞬間をいつまでも大切にしたいと思いシャッターを切りました。

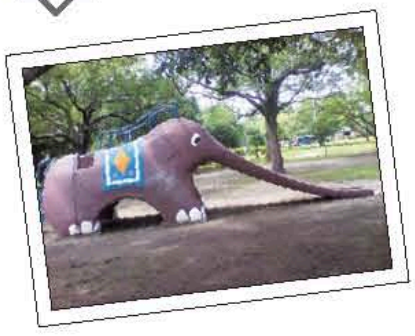
［祖納　大樹 記者］

愛犬と息子の、兄弟のようなじゃれあい。平凡な日常だが、紛争の絶えない国を考えると、なんて平和で贅沢なのだろうと思う。

琉球は、万国津梁の宝の邦であり、助け合う「結」の島と言われてきた。子供等の未来の為にも「平和の瞬間」を実感し「恒久の世界平和」へと沖縄の心を伝えたい。

［祖納　順一 記者］

九州ブロック　二つならんだママのしあわせ



35年間、親しまれているぞうさんの滑り台です。正式な公園の名称とは別に「ぞうさん公園」という名で呼ばれています。

親子二代に渡りこの公園で、しかも、どの遊具も撤去されることなく遊べている事こそ平和だなぁと、実感できる地元公園のシンボルマーク的存在です。

［北住　姫菜 記者］

この顔出し看板は、先日行なわれた七夕祭りの出品作・60点の中の一つです。

沢山の笹に書いた短冊の願いが、この満面の笑みを見ていると本当に叶うような気がしますし、こういうイベントを心から楽しむ子供達を見ているのが、とても幸せで平和なひと時です。

［北住　ちほ 記者］

事務局だより

今年、おやこ記者新聞は5周年を迎えることができました。親子記者をはじめ、取材に協力していただいた方々、ボランティアスタッフのおかげです。感謝申し上げます。

今年も親子記者の皆さんは、暑い中、いろんな方への取材を通して未来へ伝えたい想いや平和とは何かを感じることができました。

取材風景は、非核協のホームページで公開していますので、ぜひのぞいてみてくださいね。

平和をつなげる

関東ブロック　栃木県小山市　古河 育美・千恵子 記者

初めての取材・記事作りは、とても大変でなかなかまとまりませんでしたが、平和活動をなさっている方の話を聞いて、平和の大切さ、次の世代につなげる大切さを改めて感じ、私たちも栃木に帰ってみんなに伝えていこうと思います。

長崎に来て、平和のことをたくさん学び、良い経験ができて良かったです。

伝えていきたい原爆のこと

東北ブロック　秋田県秋田市　泉 千花穂・純子 記者

秋田で被爆講話をしてくださった永野さんに長崎で会えてうれしかったです。

平和祈念式典に参列したり被爆遺構をめぐったりしてとても勉強になりました。

私はおそろしい核兵器が世界からすべてなくなる日が、一日でも早くきてほしいと思いました。

北海道にも原爆の恐ろしさを伝えたい

北海道ブロック　北海道旭川市　大畑 翼空・正恵 記者

幸運にも長崎に訪れる機会を頂き、ここに来なければ、見たり、感じたりできない事をたくさん経験させて頂きました。原爆の恐ろしさ、おろかさを学び、長崎では平和学習がとても盛んな事がわかりました。自分たちが見たもの、聞いた事を北海道に戻り周りの方々にも伝えていきたいです。

未来に続けたい思い

中国ブロック　鳥取県鳥取市　堀 萌花・雅貴 記者

今回、体験して思ったことは、原爆のおそろしさと平和の大切さです。

すぐに、戦争はできるけど、平和を作るというのは、そう簡単にできません。そして、これから、戦争もなく、世界の国々が協力して仲良く、平和な世の中になってほしいです。鳥取に帰って原爆のおそろしさと平和の大切さを伝えたいです。

平和を守り未来につなぐ

近畿ブロック　兵庫県伊丹市　星山 統哉・ゆき子 記者

長崎には、沢山の「平和を守る使命」をもった人が、いる事を知りました。また、子どもの頃から日常生活の中で平和について学ぶ機会があり、それを大切にする心が育っている事もわかりました。この体験をもとに、伊丹でも平和を大切にする心をしっかり伝えていきたいと思います。

長崎の人々の思い

中部ブロック　富山県魚津市　梅次 真由・靖弘 記者

色々な方のお話を聞きました。一人一人が別の思いや意見を持っているけど、みんな、平和についてとても真剣に考えていると思いました。富山県では、原爆についてはほとんど知る機会がないので、長崎で勉強したことを、富山県にしっかりと伝えていきたいです。

長崎に来て学んだこと

沖縄ブロック　沖縄県石垣市　祖納 大樹・順一 記者

長崎に来てたくさんのことを学びました。岩永崇史さんからは、ぼくたちに平和のミニコンサートと、貴重な原爆瓦をいただき、茅野龍馬さんは話し合うことの大切さを教えてくれました。

この4日間で学んだ事を沖縄にもどり、友達やたくさんの人に伝えていきたいです。

長崎で学んだこと

九州ブロック　宮崎県日向市　北住 姫菜・ちほ 記者

この取材を通して核兵器をなくしたいという強い願いを感じることができました。原爆資料館で見た悲惨な写真などを見ても核兵器は使ってはいけないと思いました。

今回親子で平和について学ぶことができたことに感謝し、地元でも伝えたいと思います。

私達に出来ること

四国ブロック　高知県高知市　中島 さくの・あつみ 記者

初めての取材体験を通して原爆の恐ろしさを改めて感じました。一瞬で大切な物がなくなり、現在まで続く後遺症。驚きの連続でした。今はまだ理解しきれてないと思いますが、きっと心に響いていると思います。平和について、私達にも出来る事をやり続けたいです。

学生ボランティア大活躍！

今年もボランティアスタッフとして、長崎県立大学シーボルト校国際情報学部情報メディア学科の金村ゼミを中心とした学生8名に参加していただきました。

（コメントは写真右上から左下）

♡改めて長崎の原爆・平和について考え直すことができました。＝中村　大樹＝

♡貴重な話を聞けて自分にとっても良い勉強になった。＝近藤　光奈＝

♡今回初めての参加でしたが楽しく取材できました。＝田中　寛明＝

♡感じた思いを長崎から発信していきたいです。＝秀島　千尋＝

♡初めての祈念式典で平和の大切さを再認識できました。＝中山　咲＝

♡親子と一緒に平和について学ぶことができました。＝河野　美来＝

♡おやこ記者に癒されながら平和の大切さを学べました。＝中道芙実香＝

♡親子と真剣に平和に向き合いよい経験になりました。＝小川　明音＝